

科目名	教員名
知的障害児の心理・生理・病理	渡邊 雅俊

開講詳細

開講キャンパス	開講時期	曜日	時限	開講学年	単位数
たま	集中	スプリングセッション	スプリングセッション	カリキュラムにより異なります	2

講義概要

授業のテーマ

特別支援学校教諭を目指すために必要な知的障害のある幼児、児童生徒、青年の心理、生理及び医療、発達の支援方法を解説します。

授業の内容

教師や保育者として、知的障害のある子どもに関わる時にどのように理解すればよいのか、心理学や生理学、医学の知見に基づいて解説します。また、その理解に基づいた教育実践のあり方について、具体的な事例を映像資料などで紹介しながら、学生と一緒に考えていきたいと思えます。なお、この講義は、医学に関する講義は久野建夫兼任講師とのオムニバスとなります。

到達目標

知的障害のある幼児、児童生徒、青年の心理及びその発達過程を正しく理解し、それに基づいた支援の方法を習得する

授業計画

第1回	「オリエンテーション」授業概要と評価方法、知的障害のある子どもについて学ぶ意義を解説する。 【準備学習 10分】 ⇒ウェブや専門書で当該テーマに関して予習する。
第2回	「知的障害の基礎」医学的・心理学的概念と定義について解説する。 【準備学習 10分】 ⇒ウェブや専門書で当該テーマに関して予習する。
第3回	「知的障害児の教育に必要な医学的知識について解説する。 【準備学習 10分】 ⇒ウェブや専門書で当該テーマに関して予習する。

<p>第4回</p>	<p>「自閉症を伴う知的障害児の心理と支援」自閉症の心理と支援の要点について解説する。 【準備学習 10分】 ⇒ウェブや専門書で当該テーマに関して予習する。</p>
<p>第5回</p>	<p>「ダウン症・てんかんを伴う知的障害児の心理と支援」ダウン症とてんかんの特徴と、それらの心理的特徴、支援方法について解説する。 【準備学習 10分】 ⇒ウェブや専門書で当該テーマに関して予習する。</p>
<p>第6回</p>	<p>「知的障害児の発達」発達段階毎の特徴とそれに応じた支援方法について解説する。 【準備学習 10分】 ウェブや専門書で当該テーマに関して予習する。</p>
<p>第7回</p>	<p>「知的障害児の知能と思考」思考のメカニズムとそれによる思考の特徴及び支援方法について解説する。 【準備学習 10分】 ⇒ウェブや専門書で当該テーマに関して予習する。</p>
<p>第8回</p>	<p>「知的障害児の性格と自己理解」性格の形成過程と自己理解の特徴と、それに応じた支援方法を解説する。 【準備学習 10分】 ⇒ウェブや専門書で当該テーマに関して予習する。</p>
<p>第9回</p>	<p>「知的障害児の言葉とコミュニケーション」言葉の発達やその獲得過程、それに応じた支援方法を解説する。 【準備学習 10分】 ⇒ウェブや専門書で当該テーマに関して予習する。</p>
<p>第10回</p>	<p>「知的障害児の認知と学習」認知発達と学習支援について解説する。 【準備学習 10分】 ⇒ウェブや専門書で当該テーマに関して予習する。</p>

第 11 回	<p>「知的障害児の対人関係」コミュニケーションの特徴と関わり方について解説する。 【準備学習 10分】 ⇒ウェブや専門書で当該テーマに関して予習する。</p>
第 12 回	<p>「知的障害児のキャリア発達」進路や就労に対する意識の特徴と支援方法について解説する。 【準備学習 10分】 ⇒ウェブや専門書で当該テーマに関して予習する。</p>
第 13 回	<p>「知的障害児と性・恋愛・結婚」性・恋愛・結婚に関する心理的特徴と支援方法について解説する。 【準備学習 10分】 ⇒ウェブや専門書で当該テーマに関して予習する。</p>
第 14 回	<p>「知的障害児と家族」保護者やきょうだいの心理と支援方法について解説する。 【準備学習 10分】 ⇒ウェブや専門書で当該テーマに関して予習する。</p>
第 15 回	<p>「講義のまとめ」講義全体を振り返り、知的障害児の教育の課題とそれに対する心理学的知見の適用可能性について解説する。 【準備学習 10分】 ⇒ウェブや専門書で当該テーマに関して予習する。</p>
授業計画の説明	<p>知的障害児の心理・病理・生理について、前半は基礎的な内容、後半は心理とそれに応じた支援の方法といった実践的内容に配分している。</p>

※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。

授業時間外の学習方法

知的障害児に関するウェブサイトや専門書を読むようにしてください。

受講に関するアドバイス

特別支援学校や特別支援学級における知的障害児の適切な指導方法を考えながら受講してください。

成績評価の方法・基準

評価方法	割合	評価基準
レポート	60%	知的障害児の心理・病理・生理を理解し、説明できる。
平常点	40%	毎回の講義でコメントペーパーを提出し、記述内容が講義内容の十分な理解に基づくものになっている。

※すべての授業に出席することが原則であり、出席自体を加点の対象とすることはできません。

注意事項	集中講義なので、1日休むと単位を出すことができません。
------	-----------------------------

※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。

教科書・参考文献等

教科書

指定しません。

参考文献

書名	著者名	出版社	備考

参考文献コメント

参考になるウェブページ